

高校教育が抱える諸問題と 必要な対処

本田由紀

(東京大学大学院教育学研究科教授)

高校教育の現状

- 高校生の4人に3人が在学する普通科の問題
 - ・普通科内部でも学校間に著しい学力格差(「垂直的多様化」) 出身家庭が保有する諸資源の格差を反映、学区撤廃や広域化でいっそう顕著に
 - ・教育困難校では生徒は普通科目の勉強に「意義」を感じにくい 自信の低下や中退に結びつく危険
 - ・仕事の世界に対してまったく無防備なまま社会に出る層が存在 劣悪な労働条件での就労
 - ・進学校では大学受験準備に専念 合格可能性を主な基準とする大学選択、進学後の無気力化や不適応
 - ・「キャリア教育」の機能不全

高校教育の現状

- 専門高校の可能性

- ・主体的に選択して進学し、高い学習動機と高校教への満足度を示す生徒の多さ
- ・卒業後の就労状態が相対的に良好
- ・進学者の漸増、大学進学後も総じて適応

- 専門高校の課題

- ・一部に不本意進学者を含み、高校内の学力水準が多様 教育の運営に難しさ
- ・良好な就労先の減少、高学歴者の増加による就労機会の圧迫
- ・大学進学機会に制約

高校教育に求められるもの

- 出身家庭の格差、学校を出た後の雇用や生活の格差を最小化するために

- ・基礎学力の格差縮小・底上げのためのきめ細かい指導(小中学校段階から)

- ・社会生活への教育内容の「意義」、特に「職業的意義」の向上

- 労働市場で武器となる職業能力(「柔軟な専門性」)の形成

= 適応

- 職場での違法行為や社会の諸問題に声を上げるための実践的知識やノウハウの提供 = 抵抗

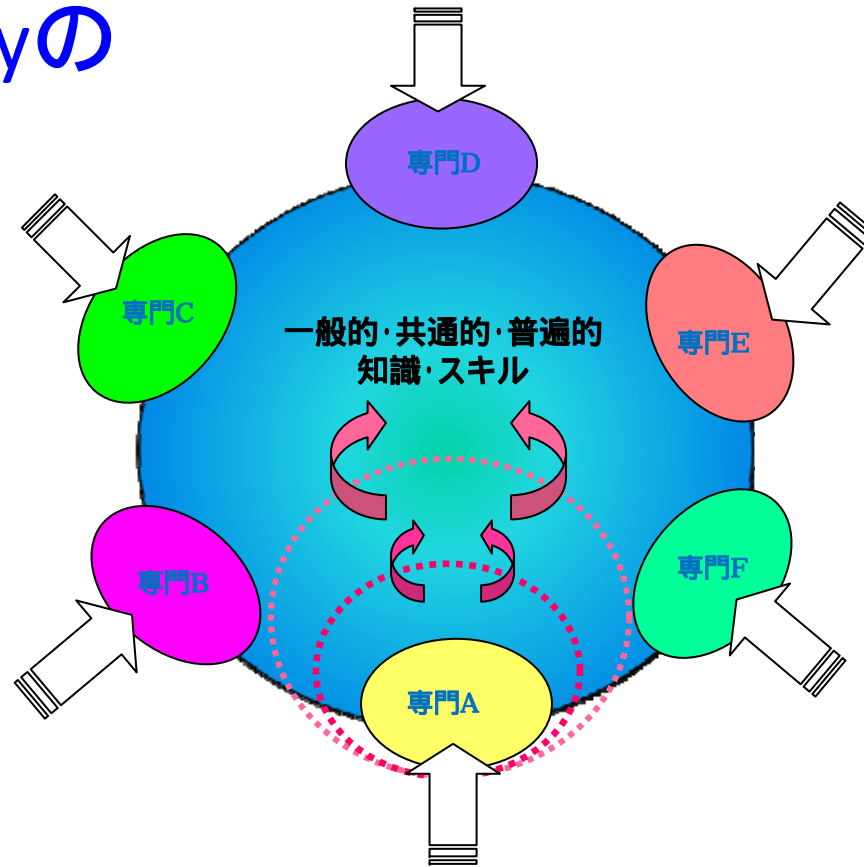
これらは普通科においても取り組まれる必要 職業分野と関連する特定の専門性を教育面での特色とする普通科の拡大

現状の「垂直的多様化」から「水平的多様化」へ

- ・そのためにも、高校現場の教職員や施設設備の拡充が必要

「柔軟な専門性」という方向性

flexpecialityの 模式図



- そのためには普通科目と専門科目の内容的関連づけが有効。
- このような「柔軟な専門性」が形成され尊重される制度的環境を教育や仕事の世界で整備してゆく必要。

高校教育に求められるもの

- 自己と他者の尊厳・承認の回復

- ・若者の生活実感に即しつつ、広い社会の諸問題や可能性に目を開く「多様な人たちと共同して・自分たちの創意工夫で・社会的有効性のある成果を達成する経験」の提供

- ex. 生徒主導による地域の課題解決の計画と実行

- 専門高校の地位向上

- ・専門高校の増設(普通科からの転換)、専攻科設置

- ・専門高校からの大学進学機会の拡大

- ・社会一般や中学校に向けての専門高校の意義のアピール

高校内外に広がる支援の場を

- 高校に求められる機能の過大化・多様化に対処するためには外部との開かれた連携が不可欠
 - ・ NPOなど外部の機関による高校への協力
 - 学習支援 ex.NPOによる労働法の出前授業
 - 進路支援 ex.若者サポートステーションやNPOによる進路相談・中退者支援
 - ・ 高校から他の社会諸領域につなげる機能
 - 福祉：困窮する家族や子ども・若者への支援
 - 雇用・労働：不安定就業・無業の若者への支援

政府・産業界への要請

- 仕事の世界において、正社員・非正社員間で両極端になっている働き方を適正化する新たな働き方の拡大
 - ex.人材要件を明示した「ジョブ型正社員」
- 教育内容の構築と「教育の場」の提供に関する教育機関との連携
 - ・教育内容と関連するインターンシップ
 - ・教育内容に関する業界団体や職業団体との継続的対話